

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 森 冬人



「おじさん世代、救世主になる」

現在40歳～57歳の男性の皆さん。働き盛りで忙しいでしょうか。ところで**風疹抗体検査**は受けましたか？春の検診で検査を受けた方もいると思います。診療所にも多くの人が風疹抗体検査・予防接種を受けるために来院しています。忙しい中、検査・予防接種を受けて頂いた皆様、本当にありがとうございます。

今年度から**3年間限定**で「おじさん世代」の男性の風疹対策が実施されています。**おじさん世代の皆さんと私たち医療者の目標は「赤ちゃん」を守る**ことです。

先天性風疹症候群という病気があります。妊婦さんが「風疹ウイルス」に感染すると、おなかの中にいる赤ちゃんに重い障害が残ります。目や耳、心臓の障害などです。風疹が流行した2013年には全国で32名の先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれています。肝心の妊婦さんは風疹の予防接種を受けられません。家族・職場・お店・病院など妊婦さんの生活する場所にいる皆さんが妊婦

さんを守るのです。「おじさん世代」では風疹に対する免疫を持たない人が特に多いとわかっています。高齢者は風疹にかかっていたことが多く、若い人は比較的予防接種を受けている人が多いです。皆さんの協力が妊婦さんを救う一歩です。

〈風疹検査・予防接種の対象者〉

1962年（昭和37年）4月2日～

1979年（昭和54年）4月1日生まれの男性

〈検査の方法〉町から届くクーポンを持って検診や医療機関で検査を受けて下さい。検査の結果、抗体が低い人は予防接種を受けて下さい。

※今回の風疹抗体検査・予防接種の一連の対象者の方は、①過去に風疹に罹ったことが証明できる診断書や②風疹抗体検査の結果を証明できる書類がない場合、風疹抗体検査を受ける必要があります。

〈先天性風疹症候群〉風疹に免疫のない女性が妊娠初期に風疹にかかると胎児に感染して起きる障害の総称。主な障害は先天性心疾患・難聴・白内障の3つ。

地域おこし協力隊として Vol.59

只見町山村振興協力隊
ふじぬま こうへい
藤沼 航平



「スポットライト」

協力隊の任期も2年と半年が経ち、残すところあと半年となりました。この2年半で多くの経験と責任を積みさせていただきました。

前のここの記事で書かせていただきましたが、只見では「人が商品」になるということがこの最終年度でよくよく感じるようになりました。というのも、この1年間は特に取材が多い。新聞やテレビ、雑誌や記念誌など色々な媒体ではありますが、分校や私個人を取り上げてくださる機会が多くなりました。また、そういった媒体にと、後ろからプッシュしてくださる方もいて、これが「顔が売れる」ということなんだな。と。

私自身は目立つことは好きですが、バリバリ働

いたり、物事に積極的に顔を突っ込むタイプでもありません。本来、協力隊は「協力」がお仕事。スポットライトを浴び、ブロードウェイを堂々と歩くことがお仕事ではありません。それでもここ最近そういった機会が増えたのは、恐らく、今後は主役の一人として頑張れ！というメッセージなのだと思っています。今、協力隊後にどうやって只見に残ろうか。何やって収入を得ていこうか。それを組み立てているところです。できるできないはひとまず置き、色々な可能性を模索し、当てられた光を無下にしないようカタチにしていければと思います。